

研究室名	<b>神経生物学研究室 学会発表</b>
------	----------------------

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

発表時期	2018年11月29日
学会名	第41回日本分子生物学会
演題名	自閉症関連分子SHANK3アイソフォームにおける多様な分子実体の解明
発表者	○ <u>和賀央子</u> 、※ <u>横森将輝</u> 、※ <u>清水仁美</u> 、 <u>内野茂夫</u> （神経生物学研究室）
内容	<p>2018年11月28日から30日に、パシフィコ横浜において第41回日本分子生物学会が開催され、博士研究員の和賀央子がポスター発表を行った。SHANK3は、シナプスにおいてAMPA受容体やPSD95、GKAP、homerなどのシナプス機能分子と質相互作用する足場タンパク質である。ヒトにおいて、SHANK3遺伝子の半量欠損は、重篤な知的障害・言語障害を主徴とする自閉性障害であるPhelan-McDermid 症候群を惹起することが知られていることから、発達障害（特に自閉症）との関連性が考えられている。本研究では、複数存在するSHANK3アイソフォームのうち、未だ分子構造が明らかにされていないSHANK3dおよびSHANKeアイソフォームの分子構造の解明を目的とした。大脳皮質組織を用いて、RT-PCR法を用いたPCRクローニングを行い、各アイソフォームのトランスクリプトの遺伝子構造を決定した。また、その遺伝子情報に基づき、翻訳開始点を推定した。</p>
関連画像	